

令和7年度 山形県立酒田特別支援学校 学校評価書

学校評価アンケートの結果に基づき、経営の重点4項目から分析し、成果、課題を提示します。

1. 個々の教育的ニーズに対応し、子どもの学びの連続性を重視した教育活動の展開

○成果:

①個に応じた指導の充実:

幼児児童生徒一人一人のニーズや実態に合わせた学習が行われており、スモールステップでの成長が見られると、保護者より高い評価（97%）をいただきました。

②登校意欲:

「子どもが毎日通いたくなる学校」という項目で、保護者の96%、教職員の89%が肯定的でした。学校が安心できる居場所となるよう今後も取り組んでいきます。

▲課題:

①指導の客観性と一貫性:

「教育的ニーズ」の把握があいまいになっているところがあり、学校全体で系統立てて一貫した指導をより一層心掛けます。また、子どもの意欲や主体性を大切に考え、自分で取り組む機会を設定していきます。学部ごと、教育目標達成に向けた「具体的な目指す子どもの姿」を再確認し、指導計画に反映するようにしていきます。

②学部の連続性:

学部段階ごとに身に付けるべき「生きる力」や社会性のめざす姿等を全校で共有し、一貫した指導を心掛けてまいります。各学部卒業段階で身に付けたい力を考え、めざす姿として指導者間で共有して指導していきます。

2. 安全で安心できる教育環境の整備

○成果:

①感染症等の対策の定着:

感染症防止対策について、保護者の97%、職員の93%が肯定的な評価となりました。また、今年度は、熱中症対策や、熊対策にも御協力をいただきありがとうございました。

②健康・体力の保持:

中学部、高等部では、スポーツタイムの継続的な実施により、生徒の体力が向上している様子が見られました。また、養護教諭からのお便りなどによる健康管理にも御協力いただきありがとうございました。

▲課題:

①環境面:

道路の狭さや、駐車場のスペース、水たまりなどでは御不便をおかけしました。県などへ引き続き要望して環境改善に努めていきます。

②安全確保と学習の両立:

人員不足や、職員がお休みした場合でも安全面に留意しながら学習の保障が担保できるよう努めていきます。また、避難訓練や、不審者対応訓練、搜索訓練などを定期的実施し、事故防止とともに万一の場合に備えて定期的に訓練を計画実施していきます。また、ヒヤリハット事例を指導者間で共有し、再発防止や大きな事故防止に努めます。

3. 子どもの可能性を伸ばし、活用の可能性を広げる教育資源の整備（デジタル対応）

○成果:

①デジタル教材の活用:

タブレット型端末やデジタル教科書などのデジタル教材を積極的に活用し、多くの授業で取り入れました。

②情報発信への取り組み:

今年度はホームページが新しくなりました。これからも学習や行事などの紹介に努めます。

▲課題:

①開かれた学校に向けて:

情報発信:ホームページのシステムが使いにくく、PDFファイルを開かないと記事が見られない等御不便をおかけしました。また、見やすいホームページ作成を心掛けていきます。また、販売活動などの情報を市報やコミュニティ新聞などへ掲載し、地域に開かれた学校となるよう発信します。

②ICT業務の負担:

学習部内の担当業務が煩雑化しており、専門的な対応が求められました。先行事例などを取り入れながら、様々な学習等に取り入れられるよう研修していきます。

4. 日常的なOJTによって、学び合える教職員の環境づくり

○成果:

①同僚性:

学び合える教職員集団となるよう授業研究や研修会、日々の業務の中で、OJTに努めてきました。

②専門研修の充実:

長期休業中など外部講師をお招きして様々な研修会を実施し、専門性の向上に努めました。

▲課題:

①業務の偏りと会議の負担:

一部の職員に業務が集中することがあり、長時間勤務となってしまうことがありました。人材の育成や講師の確保など努めていきます。また、会議や研修を精選し、授業準備の時間が確保できるようにしていきます。働き方改革を進める中でも、充実した教育ができるようにしていきます。

<学校評議員会より>

- ・人手不足の状況であっても、授業において、子どもの学習保障のために、指導者側が明確な意図（目標への共通理解）を持って指導することが重要である。そのために、指導者間で打ち合わせなど情報共有を丁寧に行うことが大切である。
- ・感染症や熱中症、雷雨、熊など様々な対応が必要かと思うが、地域とのつながりを今後も大切にして教育活動を進めてほしい。
- ・松枯れなど環境の変化が懸念されるが、安全面に留意してほしい。
- ・教育後援会に協力いただいている企業などに依頼して、産業現場等における実習や就労など生徒の進路で連携できるとよい。そのために進路指導の充実や外部機関との連携が大切である。